

神戸市勤労者福祉共済制度運営審議会（議事録）

- ・ 日 時 平成 28 年 8 月 19 日（金）午前 10:00～午前 11:30
- ・ 場 所 神戸市勤労会館 4 階 特別会議室
- ・ 出席者 板東会長、奥林副会長、山下委員、小野裕美委員、小坂田委員、
潮崎委員、福原委員、磯田委員、小野博志委員、黒川委員、
小山委員、安田委員、宇野委員、田尻委員、筒井委員
計 15 名
- ・ 欠席者 藤本委員、多田委員、
計 2 名
- ・ 事務局 神戸市：谷市民生活部長、山出勤労市民課長、
中村勤労福祉係長、中井担当係長、藤本担当係長、森本、和具
（公財）神戸いきいき勤労財団：北野事務局長、森田いきいき勤労部長

進 行

（1）議題概要説明等

① 会長及び副会長の互選

会長に板東委員、副会長に奥林委員をお願いする案を事務局から提案し、了承されました。

② 平成 27 年度事業報告説明

事務局から、平成 27 年度の事業実績について、別紙「審議会資料」に沿った説明がありました。

③ 平成 28 年度事業計画説明

事務局から、平成 28 年度の事業計画について、別紙「審議会資料」に沿った説明がありました。

④ 勤労者福祉共済事業の移管について

事務局から、勤労者福祉共済事業の移管の進捗状況等について、別紙「審議会資料」に沿った説明がありました。

（2）上記②及び③関係の発言及び質疑応答

会 長 以上の説明につきましてご意見ご質問はございませんか。だいぶたくさん多面的なことも挙がっていますから、どなたからでもご意見ご質問をお願いします。

委 員 資料の 9～10 ページのところで、余暇事業の利用者が減少しているとお伺い

した。来年度も余暇事業が予定されていますが、こういう福利厚生で提供していただける余暇事業というのは、旅行にしても、何か保養所や入場券を買うにしても、最近では、ネットで直接利用した方が、あっせんで購入より値段が安かったりしたとか、私自身の大学の福利厚生で入っているパックを見て頼もうかなと思っても、ネットで直接頼んだ方が値段はかなり安いような感じになっていまして、わざわざこれを使うような必要性が、最近なって無くなってきているのかなと思っています。これが、人数の減少やパック旅行の利用者の減少に繋がっているのではないのかと思います。

もし、余暇事業をこのまま継続しても利用者が減っていくだけではないかと思うのですが、一番は価格競争力というのか、みなさんシビアに比較して、ネットだったら比較もし易いものですから、すぐ調べて一番安いところを選んでしまうのです。そのあたり、余暇事業についての見直しを検討することが必要と感じたのですが。

事務局 実際、私どもも決算状況を見ていまして、会員数は若干増えているのに対して、逆に利用状況は減っているということが見て取れて、全体的に見てそういう傾向にあるのではないかと思います。委員が言われるようにネットの普及には大きいものがあると思っています。そういった中、新しいシステムの稼働に伴いましてホームページとかネット環境も前に比べると良くなってきていますので、そういうものも活用しながら便利に使える部分などはどんどん積極的にPRはさせていただきたいと思っておりますが、一方で、価格でどこが一番安いということになると、なかなか難しい問題もございます。そういう意味で地元密着型ということも含めて、例えば、この近くの提携施設で、具体的に申し上げますと、ポートピアホテルとかそういう近いうちで利用者も多いと思われるところは提携施設として、割引してもらえるような交渉も進めておまして、地元で使えるところをもっと使いやすくしていくということを、力を入れながらやっていかないといけないと思っております。

また、例えば、家庭常備薬のあっせんは年1回やっているのですが、時期によっては必要な薬も違ってきますので、そういった部分の回数を増やすであるとか、それぞれのニーズに見合ったような福利厚生の体系づくりをどんどん進めていかなければならないと考えており、そういった面でいろいろなご提案をいただければ、費用面も検討してできるものから実施していきたいと考えている状況です。

副会長 会員数が少し増えているということをお教えいただきました。資料の20～26ページのところで具体的な状況が載っているのですが、これを見ますと、従業員規模の100～200人未満とかあるいは300人以上とかというところで、ずいぶん会員が増えているということだと思います。特に、こういういわば中堅企業がハッピーパックに積極的に入っていただいて、活用していただけている特別な理由はあるのでしょうか。

事務局 資料の25ページに企業の加入・脱退の推移を掲載させていただいておりますが、会員数は若干ですが2年続けて増えている状況ですが、一方で、企業数という意味ではまだ減り続けているような状況です。そういう意味では、各会社が雇用する人数を増やしているのが現状ではないのかと見ております。一方で、従業員の

少ない企業は廃業などで退会されるという申請もありますので、そういう意味では従業員の少ない企業様の苦しい状況、一方で、景気の動向なのか頑張っておられる企業様につきましては、雇用数を増やしておられる状況が見て取れるのかなと、そういう意味では、こういった状況の中で景気にかなり左右される状況もありますので、景気に左右されることなく、いろいろなところからお入りいただけるように頑張っていかなければならないところかなと考えております。

財団への移管に伴いまして、今まで条例では、資本金 1 億円以下という縛りをかけていましたが、中小企業の定義といたしますのが 1 億円以下と 3 億円以下という、国の方でも定義が二通りあったりします。できましたら、今後は 1 億円以下というところを 3 億円以下に切り替えて対象範囲を広げていきたいと思っています。そういった中で規模のメリットを出していく方向、会員様に入っただき易い状況というのを作り出していくことで会員数の増と、規模のメリットを受けていただける制度づくりをやっていきたいと考えているところです。

副会長 新規に加入された会社は、100人以上とか300人以上というところが多いのでしょうか。

事務局 特に大企業が多いということはないと思います。今、はっきりとした数字を持っていませんが、極端に規模の大きいところばかりが入ってきているということではありません。

副会長 従来の傾向とすれば、中堅企業的なところがどんどん抜けていったという経過がありますから、そういうところが再び戻ってきてきているのか、あるいは会社が大きくなって従業員が増えてきているのか、その辺りの見極めはどうか。

事務局 詳しい状況は、改めてデータを分析したいと思いますが、毎月の加入・脱退が書類で見ている限りでは、それほど大きな企業様が抜けられますと、かなり目立ちますので驚いて気づくはずですが、そういう機会がそれほど多くなかったのも、大きい企業が抜けられる、もしくは、入られているという状況は目立つほどの回数にはなかったと思います。そういう意味では、今、入っておられる企業様の中での雇用が膨らんでいるという傾向が強いのではないかと感じています。

会長 どうぞ、他にありませんか。無いようでしたら、私の方から少し質問しますが、企業規模で、例えば、100人以上とあるいは50～60人とかで、利用する種目といたしますか何か差はありますか。事業所の規模で何を重視しているかということについて、差は見られますか、あまりないですか。

事務局 まず、規模別での利用状況というのが統計的に十分とれていない状況ですので、具体的なお答えはなかなか申し上げにくいのですが、感覚といたしまして、大企業になってこられるほど使われない人数は多くなったり、小さめの企業になってきますと従業員どうしの話題にさせていただいているなどの状況が、アンケートを見させていただく中で、ざっと見て感触的で恐縮なのですが、そういった傾向があるのかなと、あとは、例えばグループで申し込まれる場合、大きい企業様の中でグループを作って利用される方が回数的には多いでしょうけれども、逆に利用率としてはどちらが多いかははっきり見えていないところです。統計的にもまだ分析できて

おりませんので、今後サービスを提供していくうえでの課題なのかというふうに感じています。

会 長 それと、企業単位の意見はある程度要望とかは分かるのですか。利用した従業員の意見みたいなものの差とか、何か採られたことはありますか。

事務局 昨年11～12月に実施したアンケートは、事業主様全員と会員の内3,000人を抽出して送らせていただいたのですが、アンケート調査を実施させていただいて、ある程度会員のニーズも掴みやすくなったというのが一点あります。アンケートを毎年実施することは経費的に難しいですが、定期的に続けていきたいと考えています。

また、ハッピーパック支援隊の28年度の活動状況という資料を付けさせていただいていますが、会員様の中から意見を言っていただける方を以前に公募して、代表の方から声も聞けるような、ハッピーパック支援隊というものもつくっています。企業単位の意見という形での分析はしていませんが、そういったところも含めいろいろな角度から意見を頂きたいと考えています。

会 長 他にございませんか。それでは事業実績と事業計画の報告に関する質疑・ご意見等は以上で終わりたいと思います。

(3) 上記④関係の発言及び質疑応答

会 長 みなさんお聞きのとおり、かなり多面的な特にサービスの拡大などを含めて、移管に関するさまざまなことについて検討していただいたり、又、提案をいただいたりということがあります。それで、ユーザー側としてみなさん方の方からそういうことをやっていただくこと自体は結構なことではありますけれど、何かご希望とか、もう少し付け加えるようなことがありましたら、今から質疑・ご審議を賜りたいと思います。

副会長 前にも議論になったかも知れませんが、この新しい組織に対する市側の監督というか、チェックの体制がとういうふうになっているのか、特に新しい組織が大きく赤字を出すようなことになってまいりますと、いずれ市の方に支援を求めることになるのではないかなということを考えますので、その辺りのチェックの仕組みはどういうふうになっているのでしょうか。

事務局 まず、いきいき勤労財団というのは市が100%出資する外郭団体ということで、一つは人的なつながりとして、評議員に市の局長が入っていたり、常務理事以下、市から職員を派遣しており人的関与がございます。それから100%出資の外郭団体ですので、そちらに及ぶ市の調査権や監査権もございます。それにつきましては、市長が調査する権限も持っていますし、議会の方にも外郭団体に対する特別委員会というのがございまして、そちらで毎年審議を受けるようなかたちになっております。それと、監査委員による監査の権限もあるという状況でございます。そういったところで人的なつながり、監査権・調査権等を行使しながら、毎年状況をしっかり報告をいただきながら進めていくかたちになりますので、そこ

で適宜適切に点検して共済事業を支援する立場の市として積極的にかかわっていき
たいと考えております。

委員 やはり、会員の増強が重要になっていると思うのですが、一つは、資料の26
ページに9人以下の事業所の入っている企業数が多い、大きい200~300人
規模の企業は少数でも小規模と比べて会員数は多い、そこら辺は悩ましい問題です
が、新しい会員を増やすには、例えば、私どもでもお手伝いしたいと思っ
ていますが、資料が多すぎる場合があります。立派な利用ガイドやハッピー
パックニュースなどです。勧誘するときには、ハッピーパックに入ったら、
こういういろいろ良い特典や今回スマホとかいろいろなことを考えられて
おられますので、勧誘する年代層でかなり違いを出してもらいました
けれど、前にも作っておられた三つ折りの小さいパンフレットなど1枚
もののチラシか、やっぱり口頭ぐらいでしか説明できません。私の場合
でも自分の人脈を使ってお手伝いしたいと思っても、こういうたくさん
のものを見てもピンときませんので、もし1枚もののチラシなどあれば、
ありがたいと思っています。

それから会員の増強とは全然関係ないのですが、アンケートの整理は大変
だったと思います。その中に日本の縮図を感じています。若い世代は親と
同居の方がかなり多い、50歳代でやっと結婚なり就職されて独立する、
60歳代の方はハッピーパックに対する理解度がかなり深くて、高齢者
向けのハッピーパックのいろいろな遊びにしろ、勉強にしろ、いろい
ろやってほしい。そこはすごく面白かったです。事務局の方は大変
ですけど良い勉強をさせてもらっています。ありがとうございます。

事務局 まずは、一点目のパンフレットの件ですが、加入継続なり加入
促進のために、一枚もののチラシは作ろうと考えています。できましたら
お送りさせていただきますので、ご協力いただければ非常にありがた
いと思っています。是非よろしく願いいたします。できるだけ分かりや
すく作りたくと思っています。

あと、提言書については、確かにいろいろな傾向が切り口にでてくる
のだなということが分かりました。ただ、一方、会社の企業別・規模別
の使用・利用状況とか、切り口によっていろいろな見方があるのかな
と思いますので、どこまで作業ができるかもあるのですが、いろい
ろな視点で見ながら改善につなげていけたらと考えております。

委員 要望ではありませんが、さきほどハッピーパックの新たな未来像
を『いつも地元企業に寄り添って応援するサポーター』と資料からご提
示されていましたが、例えば、『地元企業に寄り添う健康経営のサポ
ーター』などの方が企業に対して、インパクトがあるのではと思いま
す。今、健康経営というのが旬の話題で、国を挙げて健康経営を推
進する流れにあります。医療費の低減や健康寿命の進展を若い世代
から企業をあげて健康経営として推し進めていこうというのが目的
なようです。ハッピーパックの事業は健康経営の概念に合うところが
大きいと思いますので、そういったコンセプトをしっかりと掲げてい
けばよいのではと思います。それとネット上でホームページをきつ
ちり作り上げるということが重要だと思っています。

先ほど発言されていましたが、例えば、どこかに旅行に出かけたいと思った時でも、どんな会社かなと調べる時にでも、いまではほとんど第一選択肢はホームページを見ることからだと思います。今ペーパーレス化が進んでいますので、集客なども紙媒体に頼るよりもネット上で工夫する方が良いような気がします。拡販力もネットの方が格段に大きいと思います。60歳代以上の方が「ネットは使いにくい」というのをよく聞くのですけれど、そういう方たちでもホームページぐらいは簡単に見られると思うので、そこから申込書などはペーパー化して、申込書が出力できるとか印刷できるとか、そういったような手だてをすると、利用者増につながると思います。

事務局 ありがとうございます。そういう意味では、まず提言書の方は中小企業診断士の方からいただいた提言書というかたちになっていますので、それを受けて我々が進めていく中で、今おっしゃっておられた『健康経営』というキーワードも意識しながら進めていきたいと思っています。

ホームページにつきましては、リニューアルしたところでもあり、今後は市から独立してできるようになりましたので、是非、利用し易いものに改善していきたいと思っています。いただいたご意見も参考にさせていただきながら進めてまいりたいと思います。

委員 先ほど先生が言われた通り、宿泊関係ではいろいろな紹介ネットがあり、年齢を問わずこれらの利用が拡大しており、ハッピーパックからの利用は減少していますので、宿泊施設のあつ旋は経費の面もありこれ以上広げず、資料の22ページに書かれていますが、紹介ネットに載らない地元の企業さんを中心に提携施設を広げていただきたいと思っています。

また、22ページにある今後の検討課題の②番、加入事業者との連携を進めていただきたいと思っています。わくわくセレクションはじめハッピーパック独自の催しは参加者が増えてきています。事務局で企画を増やしていくのが本来でしょうが、自分たちだけで考えるのはなかなか難しく、②番にあるように『加入事業者を活用』して独自の催しを企画して多くの参加者を集めれば、事業者もハッピーパックに入らないと損だと思っていただけ、二重の意味で加入促進になるので、積極的に検討していただきたい。

事務局 ありがとうございます。そういう意味ではいろいろ審議会でご議論いただいた部分で、ご検討の方向性というものがでてきたかと思っていますので、それを頑張って進めてまいるようにしていきたいと思っていますので、また、引き続きご意見がありましたらいつでも結構ですので教えていただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

委員 基金ですけれども、永年基金と購買基金があるのですが、購買の方は、昔はあつせんで手数料を払っていたのでしょけれども、今は直接あつせん業者とやり取りする割引のあつせんですから、使わないので0円ということになっています。この基金が3億2,600万円となっていますが、これは今後どういうふうにご利用されるのですか。

事務局　まずは、基金につきましても財団に移管していこうと考えております。永年基金につきましても、今後も永年勤続褒賞を続けてまいりますので、もちろんそれに利用するかたちになるのですが、購買基金の方は、実際のところ今は使われていない状況です。

逆に、市にある限りはそれをずっとそのまま利用しないかたちになっておりましたので、今回は両方合わせて約8億円あるのですが、8億円を一つは運用利息を使っていく部分と、資金繰りで使っていく部分、それプラス、サービス向上に向けてのために使っていく。こういった基金を財団の方に移管して、財団で活用いただきながら有効に使っていきたいというふうに考えております。具体的に何にいくら使うといった具体的な計画は今のところありませんが、運営に必要な資金として財団に移管しようということです。

会　長　いかがですか。それではだいぶんご意見も出ましたので、この辺で終わりにしたいと思いますが、本日は他に一般的なこともひっくるめまして、あるいは、この審議会のあり方とか、さまざまなことについてご意見がありましたら、又、いつでもお願いいたします。

事務局の方、この会合は、年内何回ぐらいやっていく考えですか。

事務局　毎年はだいたい事業報告などで年1回でしたが、昨年は移管の審議のため3回開かせていただきました。今年度につきましては、今回、中間報告をさせていただいて、最後は3月に最終報告をさせていただくようなかたちで考えております。審議会自体が来年の3月末までとなりますので、最終的に3月取り組み状況のご報告をさせていただいてというふうに考えております。その間に、できましたチラシであるとか、そういった部分はお送りさせていただきますのでご覧いただきたいということで考えております。

会　長　どうぞ。

委　員　審議会のメンバーには、事業所とか会社経営に携わっておられる方や従業員の代表の方がいらっしゃるの、具体的に言うとハッピーパックの会員に入っている企業では、こういうことで会社も社員もハッピーパックを有効に使っていますよということや、自分の会社でこんなふうにハッピーパックを有効活用していますという事例があれば、教えていただけませんかでしょうか。社員にも勧めてみたいと思います。

委　員　神戸地区労では、入っている企業と入っていない企業の労働組合がありますが、入っているところと言いますと、年に一度労働組合の集まりなどで宿泊などハッピーパックの券を使うというところが何か所かあります。

委　員　実際に、ハッピーパックの審議会の委員自身が良さを分かっていないと、審議会へのお手伝いができないという思いがあります。弊社の場合でいうと、この前に京都の貴船の割引券がでていたそうです。従業員がお母さんを連れてハッピーパックを利用させてもらい、「親孝行ができてすごく良かった」と言われて、こういうのは、どこかでハッピーパックのニュースに載っていて、彼はそれを見つけて良かったなと思ったり、入院する者がいたので、手続きして見舞金を出せましたので、

普通のことですけれど長年お付き合いしている中で、入っていて良かったなというふうないろいろなことを、今後も入っている限りは学びながらやっていきたいと思っております。

会 長 どうですか、ハッピーパックスの広報関係はどういうふうになっていますか。例えば、まず神戸市の広報誌のようところにイベントを扱うとか、又その他の出版物でも利用するとか、今言われた実情を紹介するようなことを何か考えていますか。

事務局 一つは、毎月出しているハッピーパックスニュースです。こちらの方はかなり購読率が高いということがアンケートの結果にも出ておりました。媒体としてレトロかなと思いましたが、紙媒体が非常に今も上手くいっているなと思えました。ニュースについてはよくクイズの応募者などからいろいろな意見をいただいている中で、「よく読んでいます」「楽しみにしています」とか「是非いろいろ書いてください」といただいております、各スポーツ大会などの結果報告なども掲載しております。

先日、ハッピーパックス支援隊の方の第1回の集まりがありまして、ホテルのランチが当たった方が、「券は2枚なのですが、せっかくの機会なので、家族10人みんなで行きます」というような、一つのハッピーパックスのサービスがきっかけで「家族で出かける場ができてありがたいです」というご意見もいただいておりますので、今後そういった支援隊の意見なども随時載せていきたいと思っております。

他には、ホームページの方も新しくなって、充実しております、直近で月5,000人ぐらいの方にホームページを見ていただいております。業界の方に聞くと、「会員の1割が利用していたら良い方」ということでしたので、私ども45,000人の会員で5,000の方が利用しているということで、そこそこの線をいっているのではないかと、本格的にホームページを改定してからまだ半年がたっていないので、もう少し伸びていくのかなと思っておりますし、伸びて行くように我々も中身の方を充実させていくように頑張っていきたいと思っております。

事務局 あと補足ですが、ハッピーパックスにまだ加入いただけない方につきましては、特に企業様へのPRが重要ですので、未加入企業にダイレクトメールも送って、興味をひかれた企業に説明に行ったり、連絡の無い企業にも電話で個別にローラー作戦をやっておりまして、それは、又改めて魅力アップも含めてお伝えしながら続けていきたいと考えております。

会 長 他にございませんか。ご発言が無いようでしたら、今日は、これぐらいにしたいと思っております。